

令和3年(2021年)3月23日

北海道教育委員会教育長 様

北海道松前高等学校長 印

次のとおり令和2年度の学校評価について報告します。

1 本年度の重点目標

昨年度の学校評価の結果を踏まえ、次の推進事項を重点目標とし、すべての生徒達の自己実現を図る学校づくりを進める。

- 1 主体的・対話的で深い学びを実現する授業改善を推進し、指導法・評価方法を工夫して、育成を目指す資質・能力の確実な育成を図る。
- 2 規律ある生活態度の定着と、自ら考え行動し、社会に主体的に貢献し、変化に対応できる力の育成を図る。
- 3 地域や地域の異校種との連携を通して地域の教育力活用の充実・学びの連続性の維持を推進し、保護者・地域から信頼される、魅力ある学校づくりを図る。

2 自己評価結果・学校関係者評価結果の概要と今後の改善方策

評価項目	自己評価の結果	学校関係者評価の結果
学習指導	「主体的・対話的で深い学びの実現」及び「観点別学習評価の充実」は授業交流週間や研修を通してできていた。指導と評価の一体化は改善されているが、絶えず改善を行う事が重要である。一方、朝の読書と学習は「読書」の徹底ができなかった事や図書活動の推進が足りなかった反省があった。次年度の取り組みとして、ICT教育の推進が上げられる。コロナ禍においても生徒の学力保障は大きなテーマであるため、ICT機器の活用が重要となる。	松前高校の様々な取り組みが功を奏し、国立大学に2名の合格者を出したこと等、日常の学力向上策に対して「大変良い」という評価を得た。
改善方策	<ul style="list-style-type: none"> ○分かる授業の更なる推進を行うとともに、指導と評価の一体化の改善を更に進める。 ○「朝の読書と学習」の時間を徹底し、読む活動を図る。 ○ICT教育を推進し、コロナ禍においても生徒の学力を保障する。週末課題の提供、Zoom、G-Suite、G-class roomや電子黒板の活用を行う。 ○スタディサプリを有効活用し、基礎基本の充実を図る。 	
生徒指導	職員室で生徒の情報共有が図られ、保護者対応も含め、大きな問題になる前に対処できている。 生徒会活動はコロナ禍においても生徒の自主的な活動はある程度できている。しかし、本校生は改善されてはいるが、自己肯定感が概ね低いいため、生徒会と学年が連携し、生徒の自主的な活動を応援する指導が必要になっている。	コロナ禍においても松前学や年末の社会福祉協議会との連携による、独居老人宅のクリスマスボランティアの取り組み等から生徒の自己肯定感の育成が図られ、高評価を得ていることから「概ね適切である」という評価を得た。
改善方策	<ul style="list-style-type: none"> ○教育相談やPT及びSCの有効活用を行い、生徒事故の未然防止に努める。 ○各学年で面談等を進め、生徒の困り感や悩みを把握し、丁寧に対応し、信頼される学校づくりを進める。 ○生徒の自己肯定感向上を目指し、生徒会と学年がタッグを組み、3年間で育てたい生徒像を明確化し、教員が生徒の活動を牽引し、生徒の自主的な活動を応援する。 	
進路指導	個々の適性・能力・希望に合わせた進路指導はできており、進路部を中心にキャリア教育に沿って、適切な進路選択と進路実現が達成できている。今後も、生徒、保護者との意思疎通を通して、ミスマッチのない進路指導を行う事が必要である。スタディサプリを有効に活用することも必要である。	本年度の進路実績等を踏まえ、その成果を産んだ進路指導の充実により「適切である」という評価を得た。
改善方策	<ul style="list-style-type: none"> ○保護者との意思疎通を通して、ミスマッチのない進路指導を行う。 ○スタディサプリを有効に活用するために、進路部だけでなく教務部も生徒の資質能力向上を目指し、スタディサプリの有効活用を進める。 ○授業及び定期テストにおいてもスタディサプリの活用を推進する。 	
公表方法	Webページ掲載	

3 添付資料

- (1) 令和2年度 年度末自己評価集計結果
- (2) 令和2年度 学校評価アンケート集計結果
- (3) 令和2年度 学校評価に係る学校関係者評価

令和2年度 学校評価に係る学校関係者評価用紙

北海道松前高等学校

自己評価結果に対する学校関係者評価 【A：充分である B：概ね充分である C：不十分である D：改善を要する】

分類領域	評価項目	達成状況	取組の適切さ	改善の方策	自己評価の適切さ	改善に向けた取組の適切さ
学校経営	確かな学力を育成し、協働して課題を解決する能力を育み、主体的で深い学びを促進する。	A	A	○行事や体験的な学習は生徒にとって重要であるため、行事の精選については慎重に進める必要がある。 ○調査の全ての設問で三観点の向を問う設問なのか、明確にする必要がある。 ○単元配列表を有効利用するために、教科横断的な取り組みを意識し、他教科とのコラボを日常から進める。 ○全ての教育活動で組織的な動きを意識し、教員間、学年や分掌間での情報共有を行い、学校教育目標や3年間のキャリア教育に沿った、「生徒に身につけさせたい資質能力」を学年の枠を越えて身につけさせる事が必要。 ○コロナ禍において業務の選択と集中は進んでいる。働き方改革を一層推進し、来年度も継続する。	A	A
	多くの体験活動を通して、基礎的汎用的能力の育成を図るキャリア教育を推進する。	A	A			
	北海道アクションプランの趣旨を理解し、効率的な学校運営に努め、時間外勤務の縮減を意識した働き方を促進する。	B	A			
	情報発信等を通して、家庭・地域社会との連携を深め、信頼される学校づくりを推進する。	A	A			
	チームワークで組織の協働性・機動性、教員個々の指導力を高め、学校力向上を推進する。	A	A			
評価者の意見等						
教育課程	生徒の興味、関心、適性に応じ、多様な進路の実現を目指し、適切な教科・科目の履修ができる教育課程を編成する。	A	A	○松前学及び探究推進チームが話し合いを設け、同一内容の部分を整理し、より系統的な学習を推進することが必要。 ○コロナ禍においても行事や探究活動を通して人的な成長が見られたので、一層の松前学の充実が重要。 ○道徳教育の一層の推進のために、研修を通して得られた知識を教職員全体で共有する。 ○生徒の自己の在り方、生き方を考えさせるためにメタ認知トレーニングの研修等を行う。 ○教育課程の深化を図ることが課題である。	A	A
	学校設定科目「松前学」・総合的な学習の時間の系統的な学習ができる教育課程を編成する。	A	A			
	基礎的汎用的能力を育成するキャリア教育の視点から体系的・系統的に学習できる教育課程を編成する。	A	A			
	教育活動全体を通して道徳教育及び人間としての在り方生き方に関する教育の充実を通して豊かな心を育てる教育課程を編成する。	B	A			
	全教科と連携し、教育課程の検討を深化する。	A	A			
評価者の意見等						
学習指導	主体的・対話的で深い学びを実現する為に指導・評価方法の工夫・改善を図る。	A	A	○指導と評価の一体化及び観点別学習評価の充実が授業交流週間やその後の研修を通してできた。 ○分かる授業の更なる推進が鍵となる。 ○指導と評価の一体化は改善されているが、来年度も継続した課題とし、絶えず改善を行う。 ○朝の「読書」の徹底ができなかったため、しっかり読ませる活動を行う。 ○スタディサブリを有効活用する為に、進学希望者を中心に適切な問題を提供し、指導を続け、基礎基本の充実を図る。 ○週末課題の提供、Zoom、G-Suite、G-class roomや電子黒板の活用を一層推進し、GIGAスクール構想を進める。	A	A
	授業規律の確立を図る。	A	A			
	教務内規の見直しを図る。	A	A			
	指導と評価の一体化、評価指導の年間計画、観点別学習状況の評価	A	A			
	「朝の読書」を効果的に実施する。	A	A			
評価者の意見等						
生徒指導	予防的、開発的な教育相談を通して、生徒理解に努め、よりよい人間関係の育成を図り、生徒事故の未然防止に努める。	A	A	○学年の壁を越えて、生徒の情報共有が図られ、保護者対応も含め、大きな問題になる前に対処できている。 ○教育相談やPT及びSの有効活用など、生徒事故の未然防止に主眼を置いた活動が大切である。 ○面談週間等を通して、生徒の困り感や悩みを把握し、丁寧に対応する必要がある。 ○本校生の自己肯定感を高める為に、生徒会と学年がタッグを組み、3年間で育てたい生徒像を明確化し、教員が生徒の活動を牽引し、生徒の自主的な活動を応援する指導が必要。	B	A
	校内・外において基本的な生活習慣の確立に努める。	B	B			
	環境美化に対する意識の向上を図り、自ら実践する態度を育成する。	B	A			
	自主的に健康管理できる人間の育成を図る。	B	B			
	生徒一人一人が生徒会活動を理解し、自主的、積極的に活動できる環境作りと態度の育成を図る。	A	B			
評価者の意見等						
進路指導	早期からの就職・進学両方に対応する進路指導を推進する。	A	A	○個々の適性・能力・希望に合わせた進路指導の面が大きく上昇している。進路指導担当を中心にキャリア教育に沿って、適切な進路選択と進路実現が達成できている様である。今後も、保護者との意思疎通を通して、ミスマッチのない進路指導を行う事が必要。 ○スタディサブリを有効に活用するために、進路部だけでなく教務部も生徒の資質能力向上に向け、活用する事が必要。 ○授業及び定期テストにおいてもスタディサブリの活用を推進する。	A	A
	進路シラバスを活用し、3年間を見通したキャリア教育により、適切な進路選択と実現が達成できる進路指導を推進する。	A	A			
	個々の適性・能力・希望に応じた進路選択を指導する。	A	A			
	情報の効果的な収集・整理・提供を推進する。	A	A			
	学年、保護者との十分なコミュニケーションを形成する。	A	A			
スタディサブリ、模擬試験などを利用した進路指導を充実させる。	A	A				
評価者の意見等						
いじめの対応	松前高等学校「いじめ根絶宣言」を生徒に定着させ、学校として「いじめを許さない」姿勢を生徒に浸透させる。	A	A	○いじめ対応は全ての項目でポイントが上昇した。生徒会が中心になって策定している、「いじめ根絶宣言」は平成30年から継続して行っている。今後は、宣言を生徒玄関に掲示し、絶えず生徒に意識させることが必要。 ○先生方が職員室で生徒の話を自発的に行い、その解決策を全教員で意見を出し合いながら行っている所が、高評価の要因になっている。今後もチーム松高を意識し、継続する必要がある。	A	A
	いじめ防止基本方針に則り、日頃から生徒の様子に注意を払い、生徒情報を共有し、その情報に応じて組織的かつ柔軟に対応する。	A	A			
	重大事態が発生した場合には、速やかに北海道教育委員会を通じ北海道知事へ報告し、北海道教育委員会と協議のもと対処する。	A	A			
	いじめを発見した時には、速やかに対応し、是々非々の姿勢で指導する。	A	A			
評価者の意見等						
地域連携	地域の人材や施設を活用した教育活動の充実を図る。	A	A	○学校PRの面ではHPの頻繁な更新や学校通信達石野、学校案内、学校広報ポスター、松高安心メール等の取組により、外部に正確で迅速な情報提供ができています。今後も、生徒募集に繋がる、取り組みを積極的にを行い、町民にアピールする。 ○松前学を中心とした取組では地域人材の活用や新聞社等のマスコミとの連携が機能しているため、継続することが重要である。 ○来年度から学校運営協議会を立ち上げることから、松前学園、町教委、町役場との連携が更に重要となる。	A	A
	P T A活動の充実を図る。	B	A			
	地域行事やボランティア活動に生徒と教職員が主体的・積極的に参加交流する。	B	A			
	小中一貫「松前学園」との連携を推進する。	B	B			
	学校通信やホームページ、学校案内、学校広報ポスターの内容を更に充実させる。	A	A			
評価者の意見等						
教員研修	資質能力を高める公開授業と研修を推進する。	A	A	○松前学園との連携を探りながら、松前高校の教員が小中学校で教える取組や、小中学校の教員が高校で教えるなどの授業の双方向乗り入れの取組を徐々に進める必要がある。	A	A
	小中学校との学びの連続性の維持により授業力を向上させる。	A	A			
評価者の意見等						

令和2年度 学校評価（期末自己評価） 集計結果

北海道松前高等学校

◇本校の教育活動について、次の項目ごとに評価をお願いします。

〔評価〕 A(4)～充分である B(3)～概ね十分である C(2)～不十分である D(1)～改善を要する （*評価C・Dの場合、改善の方策を記入してください）

*（ ）内の数値で計算し、A=3.5～4.0、B=2.5～3.4、C=1.5～2.4、D=1.0～1.4 で評価する。

領域	No.	評価項目	達成状況							取組の適切さ										
			中間	昨年度	昨年度	A	B	C	D	空欄	中間	昨年度	昨年度	A	B	C	D	空欄		
学校経営	1	確かな学力を育成し、協働して課題を解決する能力を育み、主体的で深い学びを促進する。	B (3.4)	3.5	3.1	3.2	6	8	0	0	0	A (3.5)	3.6	3.1	3.2	7	7	0	0	0
	2	多くの体験活動を通して、基礎的、汎用的能力の育成を図るキャリア教育を推進する。	A (3.5)	3.3	3.3	3.5	8	5	1	0	0	B (3.4)	3.5	3.2	3.5	7	6	1	0	0
	3	北海道アクションプランの趣旨を理解し、効率的な学校運営に努め、時間外勤務の縮減を意識した働き方を促進する。	B (3.4)	新規	2.6	新規	5	9	0	0	0	B (3.4)	新規	2.5	新規	6	8	0	0	0
	4	情報発信等を通して、家庭・地域社会との連携を深め、信頼される学校づくりを推進する。	A (3.7)	3.6	3.2	3.1	10	4	0	0	0	A (3.8)	3.7	3.3	3.2	11	3	0	0	0
	5	チームワークで組織の協働性・機動性、教員個々の指導力を高め、学校力向上を推進する。	A (3.8)	3.5	2.6	2.8	11	3	0	0	0	A (3.8)	3.7	2.5	2.9	11	3	0	0	0
教育課程	1	生徒の興味、関心、適性に応じ、多様な進路の実現を目指し、適切な教科・科目の履修ができる教育課程を編成する。	A (3.5)	3.4	3.0	3.3	6	7	0	0	1	A (3.5)	3.5	3.0	3.3	6	7	0	0	1
	2	学校設定科目「松前学」・総合的な学習（探究）の時間の系統的な学習ができる教育課程を編成する。	B (3.4)	3.6	3.1	3.1	8	2	3	0	1	B (3.4)	3.7	3.1	2.9	8	2	3	0	1
	3	基礎的汎用的能力を育成するキャリア教育の視点から体系的・系統的に学習できる教育課程を編成する。	A (3.5)	3.5	3.2	3.3	7	6	0	0	1	A (3.5)	3.6	3.2	3.3	7	6	0	0	1
	4	教育活動全体を通じた道徳教育及び人間としての在り方、生き方に関する教育の充実を通して豊かな心を育てる教育課程を編成する。	A (3.6)	3.4	3.0	3.0	8	5	0	0	1	A (3.5)	3.5	3.0	3.0	7	6	0	0	1
	5	全教科と連携し、教育課程の検討を深化する。	B (3.2)	3.2	3.2	3.2	4	9	0	0	1	B (3.4)	3.3	3.3	3.3	5	8	0	0	1
	6	資質能力の育成を目指し、カリキュラム・マネジメントの充実を図る。	A (3.5)	3.5	3.1	3.0	7	6	0	0	1	A (3.5)	3.5	3.2	3.0	7	6	0	0	1
学習指導	1	主体的・対話的で深い学びを実現するために、指導・評価方法の工夫・改善を図る。	A (3.8)	3.4	3.0	3.2	11	2	0	0	1	A (3.8)	3.5	3.0	3.2	10	3	0	0	1
	2	授業規律の確立を図る。	A (3.5)	3.7	3.0	3.1	7	6	0	0	1	A (3.5)	3.7	3.0	3.2	7	6	0	0	1
	3	教務内規の見直しを図る。	A (3.5)	3.4	3.3	3.3	7	6	0	0	1	A (3.5)	3.4	3.3	3.2	6	7	0	0	1
	4	指導と評価の一体化の推進を図る。（指導と評価、年間計画の作成、観点別学習状況評価の充実）	A (3.5)	3.4	3.0	3.2	6	7	0	0	1	A (3.5)	3.4	3.1	3.3	7	6	0	0	1
	5	「朝の読書と学習」を効果的に実施する。	B (3.2)	3.5	3.3	3.1	4	8	1	0	1	B (3.3)	3.5	3.3	3.1	5	7	1	0	1
生徒指導	1	予防的、開発的な教育相談を通して、生徒理解に努め、よりよい人間関係の育成を図り、生徒事故の未然防止に努める。	A (3.8)	3.7	3.2	3.0	11	2	0	0	1	A (3.8)	3.7	3.3	3.1	11	2	0	0	1
	2	校内・外において基本的な生活習慣の確立に努める。	B (3.4)	3.5	3.2	3.1	6	6	1	0	1	A (3.5)	3.6	3.2	3.2	6	7	0	0	1
	3	環境美化に対する意識の向上を図り、自ら実践する態度を育成する。	A (3.5)	3.7	3.2	3.3	6	7	0	0	1	A (3.5)	3.7	3.2	3.3	6	7	0	0	1
	4	自主的に健康管理できる人間の育成を図る。	B (3.4)	3.5	3.0	3.3	5	8	0	0	1	B (3.4)	3.5	3.1	3.3	5	8	0	0	1
	5	生徒一人一人が生徒会活動を理解し、自主的、積極的に活動できる環境作りと態度の育成を図る。	A (3.7)	3.4	3.0	2.9	9	4	0	0	1	A (3.8)	3.5	3.2	2.9	10	3	0	0	1
進路指導	1	早期からの就職・進学両方に対応する進路指導を推進する。	A (3.7)	3.4	3.3	3.3	9	4	0	0	1	A (3.8)	3.5	3.3	3.3	10	3	0	0	1
	2	進路シラバスを活用し、3年間を見通したキャリア教育により、適切な進路選択と進路実現が達成できる進路指導を推進する。	A (3.5)	3.5	3.1	2.9	6	7	0	0	1	A (3.5)	3.6	3.1	2.9	6	7	0	0	1
	3	個々の適性・能力・希望に応じた進路選択を指導する。	A (3.8)	3.6	3.3	3.2	10	3	0	0	1	A (3.8)	3.6	3.3	3.1	10	3	0	0	1
	4	情報の効果的な収集・整理・提供を推進する。	A (3.5)	3.5	3.1	3.1	7	6	0	0	1	A (3.5)	3.4	3.1	3.2	6	7	0	0	1
	5	学年、保護者との十分なコミュニケーションを形成する。	A (3.8)	3.5	3.1	3.1	10	3	0	0	1	A (3.8)	3.5	3.1	3.1	10	3	0	0	1
	6	スタディサプリ、模擬試験などを利用した進路指導を充実させる。	A (3.6)	3.4	3.3	3.0	9	3	1	0	1	B (3.4)	3.4	3.3	3.0	7	4	2	0	1
いじめの対応	1	松前高等学校「いじめ根絶宣言」を生徒に定着させ、学校として「いじめを許さない」姿勢を生徒に浸透させる。	A (3.6)	3.5	3.1	3.2	8	5	0	0	1	A (3.6)	3.5	3.1	3.2	8	5	0	0	1
	2	いじめ防止基本方針に則り、日頃から生徒の様子に注意を払い、生徒情報を共有し、その情報に応じて組織的かつ柔軟に対応する。	A (3.8)	3.6	3.2	3.3	11	2	0	0	1	A (3.8)	3.6	3.2	3.3	11	2	0	0	1
	3	重大事態が発生した場合には、速やかに北海道教育委員会を通じ北海道知事へ報告し、北海道教育委員会と協議のもと対処する。	A (3.7)	3.5	3.2	3.3	9	4	0	0	1	A (3.7)	3.5	3.2	3.3	9	4	0	0	1
	4	いじめを発見した時には、速やかに対応し、是々非々の姿勢で指導する。	A (3.8)	3.6	3.1	3.2	10	3	0	0	1	A (3.8)	3.6	3.1	3.2	10	3	0	0	1
地域連携情報発信	1	地域の人材や施設を活用した教育活動の充実を図る。	A (3.6)	3.7	3.3	3.4	8	6	0	0	0	A (3.6)	3.7	3.3	3.4	8	6	0	0	0
	2	P T A活動の充実を図る。	A (3.6)	3.5	3.3	3.3	3	9	2	0	0	A (3.6)	3.5	3.3	3.3	3	9	2	0	0
	3	地域行事やボランティア活動に生徒と教職員が主体的・積極的に参加交流する。	B (3.4)	3.2	3.1	3.2	6	7	1	0	0	B (3.4)	3.2	3.1	3.2	6	7	1	0	0
	4	小中一貫「松前学園」との連携を推進する。	B (3.1)	3.0	2.8	2.7	5	6	3	0	0	B (3.1)	3.0	2.8	2.7	5	6	3	0	0
	5	学校通信やホームページ、学校案内、学校広報ポスターの内容を更に充実させる。	A (3.7)	3.9	3.2	3.2	10	4	0	0	0	A (3.7)	3.8	3.2	3.2	10	4	0	0	0
教員研修	1	資質能力を高める公開授業と研修を推進する。	A (3.8)	3.6	3.2	3.2	10	3	0	0	1	A (3.8)	3.6	3.1	3.2	10	3	0	0	1
	2	小中学校との学びの連続性の維持により授業力を向上させる。	A (3.5)	3.1	2.8	3.0	6	7	0	0	1	A (3.5)	3.1	2.8	3.0	6	7	0	0	1

令和2年度 学校評価アンケート【地域・保護者・生徒】

北海道松前高等学校

◇本校の教育活動について、次の項目ごとに評価をお願いします。

[評価] A～できている B～ある程度できている C～どちらともいえない D～ややできていない E～不十分である /～わからない
A:5 B:4 C:3 D:2 E:1 /:計算に加えない

平均 A:4.5～B:3.5～C:2.5～D:1.5～E:～1.4

No.	評価項目	地域 (昨年度)			保護者 (昨年度)			生徒 (昨年度)		
1	全ての教育活動を通してこれからの社会で求められる資質・能力(主体性、協働性、思考力、判断力、表現力など)を育む教育が展開されている。	B	4.4	(4.2)	B	4.0	(4.3)	B	4.4	(4.4)
2	体験的、主体的な活動を通して、キャリア教育が推進されている。	A	4.5	(4.4)	B	3.9	(4.3)	A	4.5	(4.2)
3	情報発信等を通して、家庭・地域社会との連携を深め、信頼される学校づくりが推進されている。	A	4.5	(4.4)	B	4.1	(4.4)	A	4.5	(4.2)
4	生徒の興味、関心、適性に応じ、多様な進路の実現を目指した教育活動がされている。	A	4.7	(4.3)	B	4.1	(4.3)	B	4.3	(4.3)
5	学校設定科目「松前学」・総合的な学習の時間を通してふるさとに誇りを持たせる教育活動が実践されている。	A	4.5	(4.4)	B	4.3	(4.5)	A	4.6	(4.4)
6	社会生活において必要な資質、能力を育む教育活動が行われている。	B	4.2	(4.2)	B	4.0	(4.0)	A	4.5	(4.3)
7	豊かな心を育成する教育の充実が図られている。	A	4.5	(4.0)	B	3.8	(4.4)	B	4.4	(4.2)
8	主体的・対話的で深い学びの実現のために指導方法・評価方法の工夫・改善が図られている。	B	4.4	(3.8)	B	3.9	(4.2)	B	4.3	(4.2)
9	授業規律が保たれている。	B	4.3	(3.8)	B	4.1	(4.3)	B	4.3	(4.1)
10	シラバスが提示され、シラバスに則って学習活動がなされている。	B	4.3	(4.2)	B	3.9	(4.4)	A	4.5	(4.5)
11	生徒による授業評価を踏まえた授業改善により、分かる授業が展開されている。	B	4.2	(3.4)	B	3.9	(4.3)	B	4.2	(4.2)
12	教育相談等を通して生徒理解に努め、より良い人間関係の育成に努めている。	A	4.5	(4.0)	B	3.9	(4.3)	A	4.5	(4.1)
13	校内・外において基本的な生活習慣の確立に努めている。	B	4.2	(4.3)	B	4.0	(4.3)	B	4.3	(4.2)
14	環境美化に対する意識の向上を図り、自ら実践する態度が育成されている。	B	4.4	(4.4)	B	3.9	(4.2)	B	4.2	(4.1)
15	自主的に健康管理ができる人間の育成が図られている。	B	4.3	(3.8)	B	4.1	(4.3)	B	4.3	(4.3)
16	生徒一人一人が生徒会活動を理解し、自主的で積極的に活動できる環境作りと態度の育成が図られている。	B	4.4	(3.8)	B	4.1	(4.3)	B	4.4	(4.3)
17	早期からの就職・進学両方に対応する進路指導の推進が図られている。	A	4.6	(4.7)	B	4.1	(4.6)	A	4.5	(4.4)
18	進路シラバスを活用し、3年間を見通したキャリア教育により、適切な進路選択と進路実現が達成できる進路指導が行われている。	B	4.4	(4.3)	B	4.1	(4.5)	A	4.5	(4.4)
19	個々の適性・能力・希望に応じた進路選択が可能となる指導が行われている。	B	4.4	(4.3)	B	4.0	(4.5)	B	4.4	(4.3)
20	進路に関する情報が効果的に適格に提供されている。	B	4.4	(4.5)	B	4.0	(4.5)	A	4.5	(4.4)
21	スタディサプリ、模擬試験などを利用した進学指導が充実している。	A	4.6	(4.5)	B	4.2	(4.6)	A	4.6	(4.4)
22	家庭との連携において、保護者と十分なコミュニケーションが形成されている。	B	4.1	(3.5)	B	3.9	(4.2)	B	4.3	(4.2)
23	松前高等学校「いじめ根絶宣言」を生徒に定着させ、学校として「いじめを許さない」姿勢を生徒に浸透させている。	B	4.3	(3.8)	B	3.9	(4.4)	B	4.3	(4.1)
24	日頃から生徒の様子に注意を払い、いじめを見逃さないように努めている。	B	4.3	(3.8)	B	3.9	(4.2)	B	4.2	(4.1)
25	いじめを発見したときには、速やかに毅然とした指導で対応している。	B	4.3	(4.2)	B	3.8	(4.2)	B	4.2	(4.2)
26	地域の人材や施設を活用した教育活動の充実が図られている。	B	4.3	(4.2)	B	4.0	(4.4)	A	4.6	(4.3)
27	PTA活動の充実が図られている。(地域・保護者のみ)	B	4.2	(4.0)	B	3.9	(4.3)			
28	地域行事やボランティア活動に生徒と教職員が主体的・積極的に参加交流している。	B	4.3	(4.5)	B	4.1	(4.6)	B	4.4	(4.4)
29	町内の小・中学校との連携の推進が図られている。	B	4.4	(4.2)	B	4.0	(4.4)	B	4.2	(4.2)
30	学校通信やホームページ、学校案内、学校広報ポスターの内容は充実している。	A	4.5	(4.2)	B	4.2	(4.2)	A	4.5	(3.9)
31	松前高校に入学させて良かった。松前高校に入学して良かった。(生徒・保護者のみ)				B	4.2	(4.8)	B	4.1	(4.3)

4.4 (4.1) 4.0 (4.4) 4.4 (4.3)